

特別国体で東京が天皇杯と皇后杯獲得

来年から国民スポーツ大会に名称変更

特別国民体育大会「燃ゆる感動かこしま国体」は10月7日から17日まで、鹿児島県内で開催され、東京が2年連続で天皇杯（男女総合優勝）と皇后杯（女子総合優勝）を獲得した。開催県の鹿児島はいずれも2位だった。

子、少年女子が遠くで優勝するなど、活躍が目立った。鹿児島国体の競技の決勝は「国体チャンネル」のアーカイブ配信（無料）で見ることができる。

今大会は、コロナ禍で開催が3年延期となつたため特別大会として開催。鹿児島県での国体は1972年以来、51年ぶり。会期前に実施された水泳などを含め、37の正統式競技と特別競技の高校野球に選手、役員ら約2万3000人が参加。来年、佐賀県で開催される大会から「国民スポーツ大会（国スポ）」に名称が変更されるため、今回が最後の「国体」となった。

地元・鹿児島県選手団は剣道成年・少年男女の4種目すべてで優勝の完全制覇、弓道では成年男子、



総合開会式



バレーボール少年女子



トライアスロン成年男子 JSP0



ボクシング成年男子



テニス少年女子



ボウリング少年男子

剣道の日本一は東田4段（広島県）

第71回全日本選手権は3日、東京・日本武道館で64選手によるトーナメント戦で行われ、東田龍介4段が初出場で日本一に輝いた。広島県勢としても初めての優勝。準優勝は松崎賢士郎5段だった。



優勝し、天皇杯を手にする東田4段

東田4段は準決勝で竹ノ内佑也6段にメンを決めて破り、決勝は3年ぶりに

の優勝を目指した松崎5段と対戦。お互いに攻撃の糸口を見いだせず、延長戦にもつれ込んだ。しかし、東田4段は、相手がメンを狙って腕が上がったところを見逃さず、得意のコレをすかさず打ち抜いた。

23歳の東田4段は「（優勝の）実感はあまりない。自分とは程遠いと思っていた。仕事と両立したいと思って広島県警に入った。剣道以外でいる人なと関わるのが、剣道にも生きてくる」と、大粒の汗を光らせながら話した。



決勝で松崎5段（右）からコレを奪う東田4段

バレーボール男子日本代表がパリ五輪出場権

バレーボール男子のパリ五輪予選東京大会で、日本が来年のパリ五輪出場権を獲得した。開催国枠での出場を除くと、予選を勝ち抜いての五輪出場は2008年北京大会以来16年ぶり。

10月7日に東京・国立代々木競技場で行われた世界ランキング7位のスロベニア戦で、同4位の日本が3-0でストレート勝ちし、5勝1敗として五輪出場権を得る2位以内を確定させた。最終日の8日に、日本は同2位の米国に2-3で競り負け、5勝2敗の2位で大会を終えた。



日本-スロベニア。スパイクを決める石川祐希選手（中央）



パリ五輪出場を決め、喜び日本代表選手ら